



紙面から

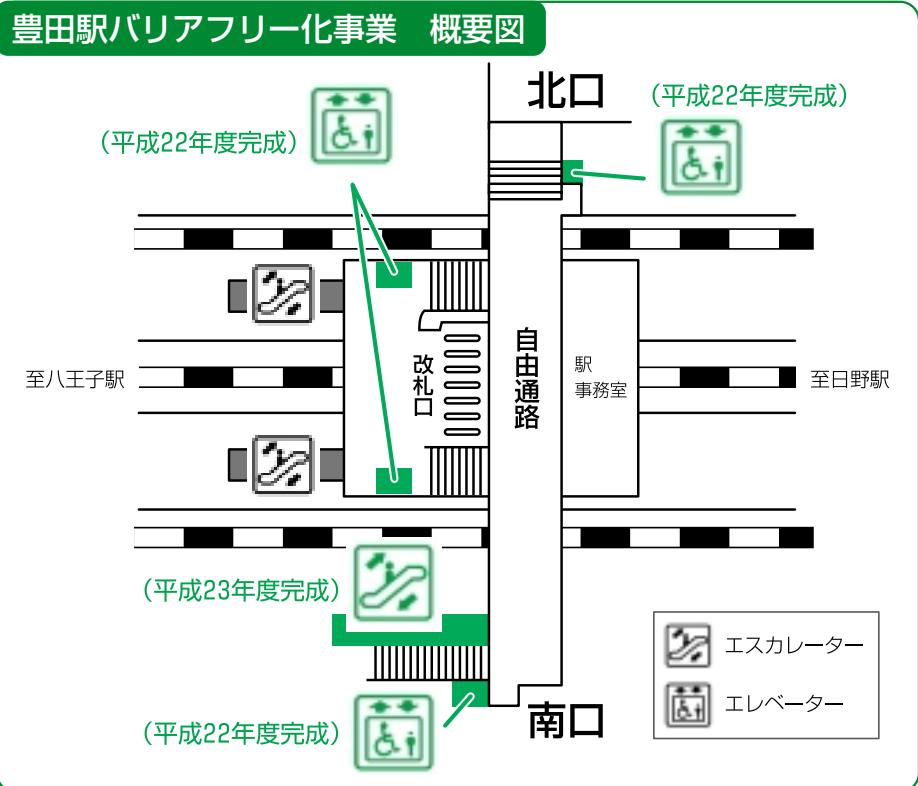
- お知らせ  
第2次環境基本計画の策定を進めています～ご意見を募集……………2
- お知らせ  
市立病院使用料の一部を改定……………2
- 催し  
新・カワセミ商品券を販売……………6
- 特集  
市民文化祭～出演者と作品を募集……………8

# 利用しやすい快適な駅を目指して 豊田駅がバリアフリー化へ



豊田駅は、地上から改札階まで北口では約3m、南口では約6mの段差があります。現在、その段差は階段を利用して昇り降りするしか方法はなく、車いすやベビーカー利用者、また高齢者などの方々に長年ご不便をおかけしていました。そこで、市とJR東日本では、この段差を解消するため、平成23年4月の正式運転に向けて、エレベーターを設置するバリアフリー工事をを行います。

広報今号では、その工事の概要をお知らせします。  
 都市計画課



▲北口完成予想図

▶南口完成予想図

**今月から工事を開始**  
 工事作業は、7月中旬以降に開始予定です。工事期間中は安全上、工事箇所を囲むため、通路などが狭くなり、駅及び自由通路をご利用の方々には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

- 設置概要**
- ▶ JR東日本が設置するもの
    - 北口階段部分…車いす対応型エレベーター1基
    - 改札内…車いす対応型エレベーター2基 (各ホーム1基)
  - ▶ 市が設置するもの
    - 南口階段部分…車いす対応型エレベーター1基、エスカレーター2基 (昇り降り各1基)
- ※エスカレーターは車いす対応ではありません

**ユニバーサルデザインのまちづくりへ**  
**工事の概要及び費用**  
 エレベーターを設置することで豊田駅はバリアフリー化となりますが、より段差の大きい南口についても、平成23年秋までを目途に、エスカレーターを設置し、全ての人の移動の円滑化と利便性の向上を目指す「ユニバーサルデザインのまちづくり」も併せて進めます。

**家族のかたちを見直す**  
 夏休みは分かれている家族が集まる季節。あらためて家族のあり方を考えてみます。かつてはこの家も大家族だった。大家族はいわば社会のミニチュアで、激しい議論や争いことは当たり前でした。でも、外部からの攻撃には力を合わせて対処する防波堤でありました。個人は家族という包装紙にくるまれて荒ぶる社会に対処してきたのです。さて最近の核家族にはそうした機能がどのくらい残っているのでしょうか。子育てにしても介護にしても、かつては全てが家事。いわゆる「家事」の範囲はとも広かったのです。子どもたちの学校から今では介護も社会化されました。家族の負担は軽くなった。それは望まれていた良いことでもありません。でも反面、重要な家事の社会化が家族の絆を弱め、家族の有難さを忘れさせることになっていないでしょうか。

尊敬する哲学者・鷲田清一先生が近著『死なないでいる理由』の中で、私的なもののゆくえをテーマに考察しています。最近の家族は排泄物処理から保育まで、生命の根幹となる機能を家族以外のサービス機関に金銭をもって委ねてきた。おかげで家族は私的な愛情や親密さを求め合う場になった。けれど、そうした家族がいかに壊れやすいものか、われわれにとっては身にしみえた痛事実である、と。

ひとに依存しなければならぬ子どもや高齢者と、生産に骨折っている自立した大人たち。自立と依存をうまく組み合わせた新しい家族のかたちが求められます。三世代が近くに住むことを奨励するべきではないか。時代にあった家族のかたちを創ることが来たると思います。そのさい家族の「敷居を下げる」ことも必要になるでしょう。

